

「モバイル'09」原稿のやさしい執筆要項

○神戸 学, 神戸 文子
港島大学モバイル文化学部

Friendly Guidelines to prepare Papers for Symposium Mobile'09

KOBE Manabu, KANBE Fumiko
Faculty of Mobile Services, Minatojima University

abstract: Authors are kindly invited to locate English abstract of the paper up to 200 words here.

keyword: keyword1, keyword2, keyword3, keyword4, keyword5

キーワード: ピッチ可変字体, キーワード 2, キーワード 3, キーワード, キーワード 5

1. はじめに

シンポジウム論文集は A4 版で著者が自ら作成した原稿を白黒オフセット印刷で複製する。近年、CD-R 版の制作を試みており、**カラー写真**や**図式に色**が使われている場合は、カラー版を取り入れ、希望される会員には CD-R の提供を行っている。

論文形式の原稿は以下の執筆要項に従って、具体的な内容をわかりやすく書くこと。昨年来、windows OS と APL の改版が行われ、グラフなどに過剰な飾りが暗黙のうちに選択され、これを解除するのに手を焼く事態が発生している。学術文書にふさわしい、簡素で、見やすい表現を選択するよう心がけてほしい。この要項に合わせる事が困難な方は、事務局に連絡されたい。最善の方法をご相談する。

論文の執筆には慣れた方がいる反面、初めての方、分野的に不慣れな方もあり、用語や図表の描き方で再考の余地のある例がこれまでにあった。シンポジウム委員会の意見に従い、事務局では執筆者に表現の変更、修正を照会する場合がある。これは表現を工夫するためのもので査読ではないが、照会があった際には宜しくご考慮下さい。

原稿提出と同時に著作権譲渡の書類を提出すること。これは執筆者の権利を保護することを目的とするものであって、学会は執筆者の著作活動に制約を設けるものではない。

2. 執筆要項

印刷用紙は A4 版白とし、余白は上下 25 mm、左右 20 mm。枚数は 2~6 枚(偶数頁)とする。原稿の各頁のフッターに頁番号(11pt)を1から始めて記入する。この数字は製版時に、事務局で貼り替える。各頁のヘッダー/フッターは事務局で表記のように設定する。

2.1 タイトル部

- 和文論題(ゴシック, 18 ポイント(pt), 中央揃)
- 和文著者氏名(P 明朝など, 12pt, 発表者名に○印)
- 和文所属(P 明朝など, 11pt)
- 英文論題(Times New Roman など, 14pt, 中央揃)
- 英文著者氏名(Times New Roman など, 12pt, 中央揃)
- 英文所属(Times New Roman など, 11pt, 中央揃)
- abstract (up to 200 words, 9pt, 左揃)
- English keywords (up to five)
- 和文キーワード(5個)

連名者がいる場合、発表者には、和文氏名の左側に○を付ける。

English abstract は省略可。以上は 1 段組みとする。著者名、著者所属については、少人数の場合と多数で所属も複雑な場合があるので、3 頁の表記例を参考に、それぞれ適切な方式を選択すること。外国人が含まれている場合、音読を助けるためにもローマ字表記をつけてください。

2.2 本文

本文は 2 段組みで作成し、文字は P 明朝を原則とする。文字サイズは 9 ポイント(pt)、行間 15pt、但し、段幅を越えた図表を組み込み、あるいは 2 段通しの図表を入れることを排除するものではなく、図や表の見やすさ、複雑さを考慮して選択する。章の番号、タイトルは 10pt、ゴシック体、センタリングとする。英数字にはピッチ可変(proportional font)の字体を勧める。和文にもピッチ可変フォント(MSP 明朝、MSP ゴシックなど)を使うと良い仕上がりが期待される。規則や規格などフォーマルな文面では MS 明朝、或いは MS ゴシックなど固定ピッチ文字が適している。

和文の強調箇所には、ゴシック字体を用いる。太字、Bold を使うと文字がつぶれて、読みにくい場合がある。

2.3 図・表

図、表にはタイトル(P 明朝, 9 pt, センタリング)を付ける。和文、英文の両方のタイトルを付けてもよい。図、表の番号は、

表1 変の数と頂点の数
(明朝, 9pt), センタリング)

ゴシック	辺の数	頂点の数
三角形	3	3
五角形	5	5
楕円	なし	なし

それぞれ、図1, 図2, …、Fig. 1, Fig. 2, …、表1, 表2, …、Table 1, Table 2, … のように通し番号とする。単純な表では、全ての罫線が必要な訳ではない。また複雑な表では罫線に太さや濃淡を付けてデータの識別性に工夫をする。

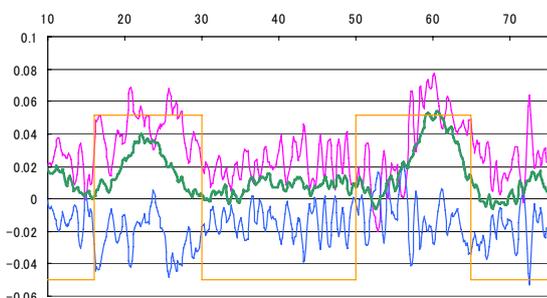


図1 NIRS 計測波形

3. 参考文献など

本文に続いて、(謝辞、) 参考文献、(著者紹介)を配置する。(括弧)で示すものは、ページに余裕がある場合に、随時付け加えるべきものである。

3.1. 引用

本文中での参考文献の引用は引用箇所[1], [2], [4-6]などとする。

3.2 文献の記載

参考文献は本文の末尾にまとめる。雑誌の場合[1]は、

著者名, 題目, 雑誌名(略記にて可), 巻(太字), 号, ページ, 発行西暦年を、

書籍[2]の場合には、著者(または編者)名, 書名(編者), 発行所, ページ, 発行西暦年

の順に記載する。なお、著者(または編者)名の後はコロン「:」、題目そのほかの区切りはカンマ「,」とし、発行西暦年は小括弧「()」で囲む。

著者(または編者)名は、和文の場合[4]、姓のみ列記し、カンマ「,」で区切る。

著者が多い場合には、代表的な著者名を記載し、その他の

著者名を「他」で省略することができる。英文の場合[5]には、「姓, 名のイニシャル。」を列記し、カンマ「,」で区切る。著者が多い場合には、「et al.」で省略することができる。

(記載例)

- [1] 著者: 表題, 雑誌名, vol. 3 (号), pp.1-10 (2001).
- [2] 著者: 表題, 編集者, 書籍名, 巻, pp.1-10, 出版社(2000).
- [3] 著者: 書籍名, pp. 1-10, 出版社 (1999).
- [4] 前川, 能瀬, 赤松: 次世代移動情報のヒューマンインタフェース、カーナビ・携帯電話の利用性と人間工学、pp. 177-184、日本人間工学会関西支部 (2000)
- [5] Farley, W. and Smith, R.N.: Mobile Interactions in Agriculture, Human Computer Interaction, vol. 3, pp. 112-120 (2001)

3.3 著者紹介

表記は西暦で、①氏名(ゴシック, 10 pt) ②(会員種別) (以下は P 明朝, 9pt) ③最終学歴、学位 ④研究歴 ⑤関心のあたるテーマ⑥主な所属学会の順で記載。画像サイズは、ヨコ 25 mmとし、モノクロ/カラーの別は問わない。

4. 原稿の提出

以下の3点を、

1. オリジナル原稿(PDF ファイル)
2. Word 等のデータファイル
3. 著作権譲渡の同意書

1, 2 はメール, 3 は署名、署名日を記入して FAX または郵便で事務局へ送ること。原稿の頁番号等の書式調整を事務局でおこなう。

著作権譲渡書は不正コピーなどが発見された場合に学会として対抗するためのもので、原著者が同著作物を再利用することに異議を申し述べることはない。複数執筆者による著作物の場合、その内の一人が代表執筆者となって署名する。

原稿締切日は 2009 年 1 月 30 日(金) 必着です。

原稿の締切日とシンポジウムの間が短くなりました。締切日に遅れた原稿は論文集に掲載できなくなりますので、当日配布資料のご用意を執筆者側をお願いします。

5. 発表用投影機材について

発表時に使用する資料は、ビデオプロジェクタによる投影を予定している。パソコン・ビデオカメラなどは発表者側で用意すること。とくに、ケーブルに変換器具を必要とする場合はお忘れなく。

5.1 ビデオ再生について

パソコン以外の機器の出力を信号源としてビデオ投影することも可能ですが、確実な再生には8ミリまたは DV デッキをご持参下さい。VHS、ハイビジョン再生が必要な方は、準備の都合上、事前に事務局までご照会下さい。

〒650-0046

神戸市中央区港島中町 6 丁目 14 番地
ポートピアプラザ C 棟 1803 号
特定非営利活動法人 モバイル学会事務局E-mail: mgo@mobilergo.comWeb: <http://www.mobilergo.com/>

Phone + Fax : 078-303-1560

6. 問い合わせ・原稿送付先

※切日は厳守すること。何か不明な点は、事務局まで問い合わせること。

付録 タイトル、執筆者、所属の表記法

方式 1 : ○名前 p (所属 a) , 名前 q (所属 b)

NIRS 軌道からみた手・指動作と脳活動

○ 田上 博(田村ヒューマンインタフェース研究所)
大岡 正子(神戸総合大学)

方式 2 : ○名前 p, 名前 q, 名前 r (所属)

携帯電話の遠隔医療応用における標準化への問題点

○木暮 央樹, 松岡 祐一, 芥川 陽介, 木内 正武
(徳育大学工学部 医用電子工学科)

方式 3 :

○名前 p
所属 a名前 q
所属 b名前 r
所属 c

視覚提示条件の相違による NIRS 軌道の変化についての考察

○大岡 正子, 長谷川 和宏
神戸総合大学 国際文理大学

方式 4 :

○名前 p¹⁾, 名前 q²⁾, 名前 r¹⁾, 名前 s³⁾, 名前 t¹⁾
1) 所属 a, 2) 所属 b, 3) 所属 c

ケータイ画面上の文字の視認性評価方法およびその実践

○John SPENSER¹⁾²⁾, REN Kun-Pyo²⁾, リャン ケンキ³⁾, 張 鋭⁴⁾, OH Gi-Dong⁵⁾

1)国際文理大学情報学部 2)KAIST 3)神戸国際大学家政学部

4)㈱アジアテレコム 5)名古屋モバイルセンター

* 外国人の氏名については、姓と名が判別できるような工夫が望ましい。